

## 令和元年度第2回宇都宮市民大学運営協議会

日 時 令和元年8月1日(木)  
午前10時30分～  
会 場 人材かがやきセンター研修室  
(中央生涯学習センター5階)

### 次 第

1 開 会

2 挨拶

3 議 題

(1) 報告事項

① 令和元年度宇都宮市民大学前期講座の実施状況について・・・資料1

② 令和元年度宇都宮市民大学後期講座の実施について・・・資料2

(2) 協議事項

③ 合同開講式・公開講座の見直しについて・・・・・・・・・・資料3

④ 令和2年度宇都宮市民大学の実施について・・・・・・・・・・資料4

4 その他

5 閉 会

## 宇都宮市民大学運営協議会委員名簿

任期：宇都宮市民大学運営協議会運営要領第4条の規定による期間  
(平成30年9月1日～令和2年8月31日)

令和元年6月1日現在

No.	氏 名	所 属 団 体 等 役 職
1	あべ よしこ 阿部 好子	宇都宮大学 広報・地域連携室長
2	えだ そういち 江田 壮一	宇都宮短期大学 事務局長
3	おおやま しんいち 大山 眞一	宇都宮市講座企画・運営ボランティアスタッフ
4	かわしま やすお 川島 育郎	株式会社栃木放送 報道制作局長
◎ 5	かわもと きよし 川本 清	帝京大学 宇都宮キャンパス 事務長
6	こばやし じろう 小林 治郎	株式会社 下野新聞社 編集局総務部長
◇ 7	こばり きょうこ 小針 協子	とちぎボランティアNPOセンターぽぽら コーディネートリーダー
○ 8	しまだ しげお 島田 繁雄	宇都宮市民大学講座企画運営選考委員 宇都宮メディア・アーツ専門学校 校長
◇ 9	のなか まさとも 野中 正知	公益財団法人 とちぎ未来づくり財団 事務局長
10	はせがわ きょうこ 長谷川 京子	宇都宮市中央生涯学習センター利用団体代表

(五十音順)

◎ 会長      ○ 副会長      ◇ 監事

## 令和元年度宇都宮市民大学前期講座実施状況について

### 1 合同開講式・公開講座

#### (1)開催日時

令和元年5月27日(月) 午後2時～午後4時

#### (2)会場

宇都宮短期大学 長坂キャンパス 須賀友正記念ホール

#### (3)参加者数

受講生 158名(出席率47%)

#### (4)合同開講式

##### ア 実施内容

- ・ 主催者挨拶 宇都宮市教育委員会 教育次長 菊池康夫  
宇都宮短期大学 学長 須賀 英之 氏
- ・ 来賓挨拶 宇都宮市生涯学習センター運営審議会 副委員長 竹内 律 氏
- ・ 受講者証交付 宇都宮市教育委員会教育次長より受講者代表2名へ交付

##### イ 受講者の感想・意見

- ・ 開講するというセレモニー、これから始まるという気持ちになった。
- ・ 市内にある大学教育機関で受講できることを、嬉しく思う。
- ・ 得た知識をそれだけにせず実践に結びつけるようにしていきたい。
- ・ 企画者紹介が省かれ残念だった。
- ・ 形式的でつまらない。特に必要がなかった様に思う。

##### ウ 評価

- ・ 受講者のアンケートでは、約7割が「とても意義がありよかった」「どちらかといえば意義があった」と評価している。
- ・ 受講者が一堂に会す唯一の機会であり、公開講座を経て市民大学が開講するという意識を高めることに結びついている。
- ・ 共催事業として宇都宮短期大学で開催したことは、受講者が市内大学の魅力に気づいたり、親しみをもったりする機会にもなり、受講者の意欲向上へとつながったものと考察できる。

#### (5)公開講座

##### ア 実施内容

- ・ 講 師 宇都宮短期大学 音楽科  
専任講師 大島 美知恵 氏(音楽療法)  
専任講師 阿久澤 政行 氏(ピアノ)  
専任講師 鎌田 亮子 氏(歌唱)

- ・ テーマ 「人生 100 年時代，地域で暮らす豊かな生活のために  
～地域における音楽療法の実践から～」
- ・ 講義内容 講座前半は，ピアノと声楽による生演奏等を，講座後半は，音楽に合わせて歌ったり体を動かしたりする音楽療法の実技体験を通して，音楽を心身の健康維持や生活の質の向上へ理解を深める講座。

#### イ 受講者の感想・意見

- ・ 100才時代に生きている者としての自覚をあらためて高められた。
- ・ 前半のピアノ，ソプラノの力強さ等感動ものであった。
- ・ 心にしみる歌・演奏の後に講義があり，その内容を裏打ちさせるもので，構成面でも納得させられました。
- ・ 音楽療法の実技が大変楽しかった。今後取り組んでいこうと思う。

#### ウ 評価

- ・ 受講者アンケートでは，「とてもよかった」「どちらかといえばよかった」の意見が97%と，非常に満足度の高い講座であった。
- ・ 「人生100年時代を心身ともに豊かで健康に送る」という内容は受講者にとって興味・関心の高い講座であった。音楽療法という新しい健康維持へのアプローチの方法や講師の生演奏は受講者への大きな刺激となった。
- ・ 受講者からは「音楽療法は日常に取り入れたい。」「介護予防にも活用したい。」素晴らしい音楽であった。」などの声が多く寄せられ，本講座の目的である音楽療法を生活に取り入れて自身の健康や QOL 向上を考えるきっかけづくりに繋がったものと考察される。  
⇒ 別紙1参照
- ・ 受講料を支払っているにも関わらず，専門講座の受講者の約半数が欠席する状況が続いており，公開講座のあり方は見直しが必要と考えられる。

## 2 専門講座

### (1)講座数

6 講座（※公開講座を除いた回数はそれぞれ 5 回～8 回）

### (2)周知方法

広報うつのみや（平成31（2019）年4月号），市ホームページ，パンフレット，チラシ，新聞記事

### (3)開催期間

令和元年5月28日～7月18日（公開講座を除く）

### (4)募集定員等

募集定員310名，応募者数422名，受講者数336名，修了者数316名(94.0%)

### (5)実施状況

⇒ 別紙2参照

# 令和元年度宇都宮市民大学前期合同開講式・公開講座実施報告

別紙1



- ◇開催日時:令和元年5月27日(月) 午後2時～午後4時
- ◇開催場所:宇都宮短期大学 長坂キャンパス 須賀友正記念ホール
- ◇受講者数:158名
- ◇アンケート回収数: 101名(63.92%)
- ◇出席来賓:1名
- ◇出席主催者:13名

受講者について(全体)		区分	人数	割合
<p>(1) 年齢</p>	1 20歳未満	0	0%	
	2 20代	0	0%	
	3 30代	0	0%	
	4 40代	0	0%	
	5 50代	3	3%	
	6 60代	37	37%	
	7 70代	51	50%	
	8 80歳以上	10	10%	
	無回答	0	0%	
合計	101	100%		
<p>(2) 性別</p>	区分	人数	割合	
	1 男性	58	57%	
	2 女性	39	39%	
	無回答	4	4%	
	合計	101	100%	
<p>(3) 公開講座と専門講座</p>	区分	人数	割合	
	1 公開講座のみ受講	4	4%	
	2 公開講座と専門講座を受講	96	95%	
	無回答	1	1%	
	合計	101	100%	
<p>アンケート結果 合同開講式について</p>	区分	人数	割合	
	1 とても意義がありよかった	41	41%	
	2 どちらかといえば意義があった	35	35%	
	3 どちらかといえば意義があるとはいえない	11	11%	
	4 意義があるとはいえない	7	7%	
	無回答	7	7%	
合計	101	100%		
<p>公開講座について</p>	区分	人数	割合	
	1 とてもよかった	81	80%	
	2 どちらかといえばよかった	17	17%	
	3 どちらかといえばよくなかった	1	1%	
	4 よくなかった	1	1%	
	無回答	1	1%	
合計	101	100%		

## 令和元年度 宇都宮市民大学前期専門講座実施状況

コース	講座名 (開講数)	講師	開催期間	(募集定員) [応募者数] 受講決定	受講者数 [修了者数] 修了率	講座の評価
I	近代を切り開いた栃木の女性たち ～女性であるからこそできたこと、 女性だから見えたもの～  (全5回)	須賀栄子と後継者の著書 渡辺基氏 谷中村の遺跡を守る会 会長(宇都宮大学名誉教授) 高際澄雄 氏 獨協医科大学 元看護学部長 加藤光實氏 鈴木賢二版画館如臨房主宰 鈴木解子氏 栃木県立博物館 名誉学芸員 柏村 祐司 氏	5/28～ 6/25	(50) [47] 47	43 [40] 93.0%	女性がテーマということもあり、受講生の9割が女性という稀有な講座となった。栃木県に縁のある、教育に情熱をささげた栃木県女子教育の先駆者須賀栄子、田中正造を尊敬し婦人解放運動のさきがけとして知られ東洋のジャンヌ・ダルクと称された福田英子、黒羽藩家老の娘として生まれ看護師として生きた大関和、芸術家の夫鈴木賢二を支えた妻よし、天才画家青木繁の妻でもある女流画家福田たねの5人の女性の足跡を、歴史的な背景や社会等に与えた影響について学んだ。女性の社会進出が認められない時代に信念を貫き偉業を成し遂げた生き方は、受講生の今後の励みとなる満足度の高い講座となった。
I	宇都宮の明治維新 ～戊辰戦争でどう変わったのか～  (全7回)	宇都宮市文化財保護審議委員会 委員 大嶽 浩良 氏	6/4～ 7/16	(80) [123] 85	79 [75] 94.9%	戊辰戦争は以前にも取り上げられたテーマではあったが、定員を大きく上回る申し込みがあり、宇都宮での明治維新への関心の高さが伺われた。資料は講師自らの足で歩いた戊辰戦争史跡を基に作られ、土方歳三が宇都宮城を陥落させた時のエピソード等、詳しい説明があり、受講生からは講義時間を過ぎてても質問が続き、熱い講座となった。最終回の「戊辰戦争史跡探訪に向けて」は講座の「まとめ」にもなり、各自が時間的な制約もなくそれぞれの思いで史跡を巡り、講座を振り返る機会になり、館外学習とは違う新たなよいプログラムだったと思われる。
II	人生100年時代、地域で暮らす豊かな生活のために ～心(心理)と身体(看護・食・医療・ 介護)の今から～ (全5回) 〔宇都宮短期大学連携講座〕	宇都宮共和大学子ども生活学部教授 杉本 太平 氏 宇都宮短期大学 人間福祉学科准教授 益川順子氏 食物栄養学科特別講師 吉野ひろみ氏 人間福祉学科講師 北爪あゆみ氏 人間福祉学科助教 松山紀彦氏	6/10～ 7/8	(30) [45] 45	40 [36] 90.6%	大学連携による「人生100年時代」の講座は、定員を超える申込みで人気があり、修了率・満足度も高く好評だった。講座は各回テーマ・講師が違い多分野に亘り、日常生活に役立つ具体的で且つ最新の情報も提供される大変充実した内容だった。 特に第2回講座で講師が配布した「緊急医療情報連絡カード」は大好評で、その後受講者の一人はすぐに地元老人会で広めるなど「学んだ成果を地域社会で活かしていく」という生涯学習の目的に叶ったものとなった。
III	南極大陸 ～知られざる世界の魅力～  (全8回)	気象庁気象研究所 元 地球化学研究部長 緑川 貴 氏 国立極地研究所 極地工学研究部門 元 技術職員 石沢 賢二 氏 国立極地研究所 副所長 伊村 智 氏 名誉教授 山岸 久雄 氏 南極・北極科学館ミュージアム ナビゲーター 川久保 守 氏	5/30～ 7/18	(50) [65] 50	46 [40] 86.9%	定員を超える申込があったが館外学習を予定していたことから、定員どおり受講決定した。多くの謎に包まれた南極に、幾多の苦難を乗り越え挑み続けてきた日本の観測隊を支えた技術、過酷な環境のもと命を懸けてきた生き物たち、オーロラの謎など、私たちの想像をはるかに超えた世界について、実際に越冬を体験した講師からデータを基に学んだ。日本のチームによるオゾンホールが発見により、フロンガス使用禁止へ繋げた功績なども紹介され、過酷な南極観測は世界貢献に繋がることを知る機会となった。館外学習も、南極観測で使用した実物を手にすることが出来、受講者に満足度の高い講座となった。
III	江戸の科学力！！ ～世界最高の自然科学は江戸時代に 始まった～  (全6回)	国立科学博物館 産業技術史資料情報センター長 鈴木 一義 氏	6/3～ 7/8	(50) [80] 80	73 [72] 98.6%	理系のテーマで、男性からの申し込みが多く、定員を大きく上回ったが、講師の理解を得て全員を受け入れた。江戸時代を「科学」の視点で捉えると、鎖国時代ながら識字率が高く、生活に根付いた「測量」や「数学」が世界水準を上回るほどに発達し、蘭学も取り入れた「医学」の知識は各藩主により、藩内に広められ、豊かな時代だったことが理解でき、毎回思いがけない驚きのある講座となった。からくり人形や測量時の道具や、当時の民衆に流布した薬草の本など、手に取って見られたこともあり、修了率が非常に高く、受講生にとって大変満足度の高い講座になったと思われる。
III	三国志の世界 ～英雄たちの群像～  (全6回)	早稲田大学理事・文学学術院教授 渡邊 義浩 氏 早稲田大学非常勤講師 高橋 康浩 氏	6/8～ 7/13	(50) [62] 62	55 [53] 96.3%	前期唯一の土曜日午後の講座であったが、定員を超える応募があった。陳寿(ちんじゅ)が著した歴史書『三国志』と、前者を基に物語を加え羅貫中(らかんちゅう)がまとめたとされる『三国志演義』について、講師の丁寧な解説とDVDを活用した映像により英雄たちの群像を通してその違いを学んだ。古代中国の歴史でもあり、類似の名称も多く難しい内容であったが、事前に自己研鑽に取り組んで臨む受講者も多く、資料等に熱心にメモを書きとめる姿に興味・関心の深さを感じた。受講者の期待通り、知的好奇心や学習意欲を高めた講座となった。
【コース名】 I 郷土を愛する地域・文化・歴史コース II 今を読み解く現代社会コース III 暮らしを彩る教養コース			募集定員	310人	【総合的な評価】 6講座中5講座について定員を超える申込みがあり、修了率も今年度から公開講座出席数を含めなくなったことも多少影響してか94%と高かった。また、受講者アンケートに関しても、成果が「とてもあった」「わりとあった」との回答が、概ね全体の91%を占めた。(参考1参照) これらの結果を踏まえると、各講座とも受講者の高度で専門的な学習ニーズに応え、知的好奇心を刺激する企画内容であったことから、満足度の高い講座提供につながったものと考察される。	
			応募者数	422人		
			受講決定数(開講前)	369人		
			受講者数(開講後)	336人		
			修了者数	316人		
			修了率(修了者/受講者)	94.0%		

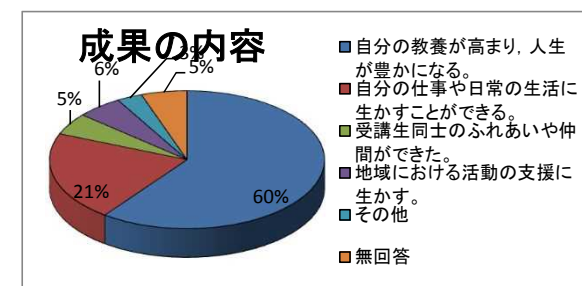
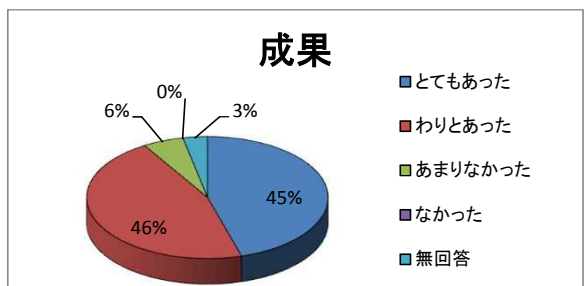
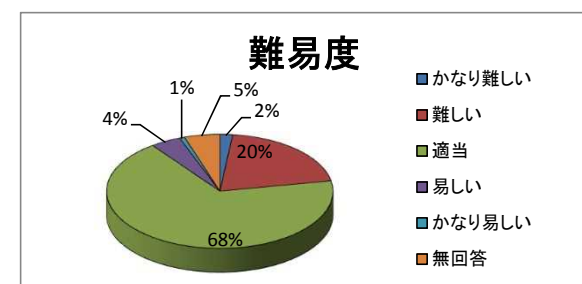
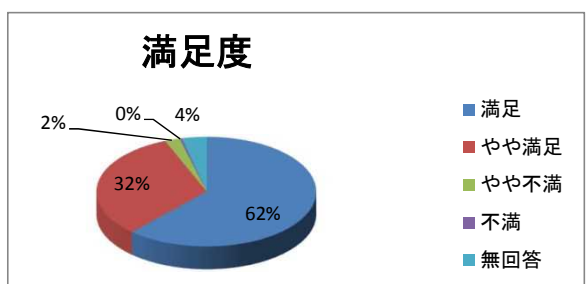
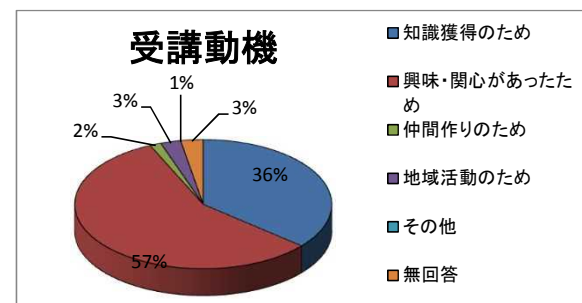
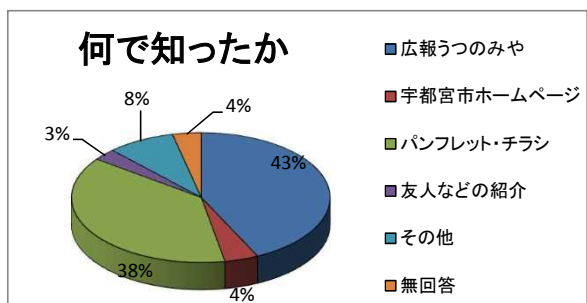
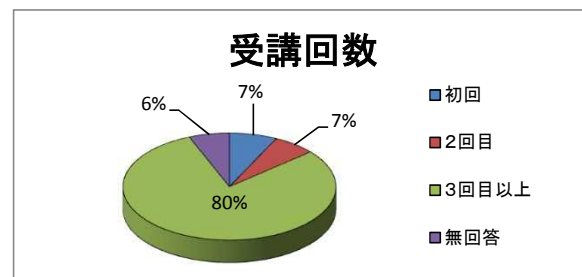
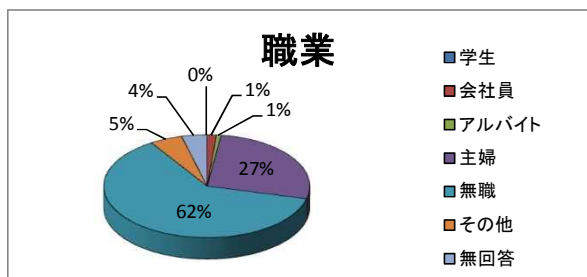
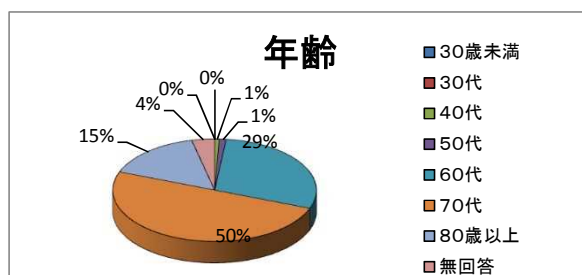
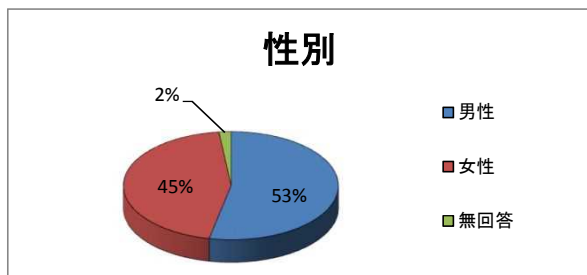
(参考)受講者の感想・意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・栃木県出身でこの様な女性の先駆者がいることを学び、少しでも近づける女性になれるよう今後の人生に活かしたい。</li> <li>・第4回の看護師大関和氏の偉業について全く知らなかったので興味深い講座となった。</li> <li>・第5回講師の話は聞き取り易く具体的でよかった。</li> <li>・知らなかった方の活躍を学び知識が広がり、故郷への思いを改めて感じた。</li> <li>・第1回の講師は、声の大きさ・話し方が不適切で聞き取りにくかった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・知らない事の多い明治、これを機にもっと学びたい。</li> <li>・戊辰戦争の細かな経緯が分かり興味深かった。</li> <li>・「宇都宮県の開設、展開」も興味深かった。</li> <li>・関西から来たため、表題の割に掘り下げが少ない。もう少し宇都宮との関連を詳細に知りたかった。</li> <li>・敵、味方の区別なく政府からのお咎めにも屈せず墓(六道の辻)を作って引き継いできたことに感動を覚えた。</li> <li>・明治維新の神仏分離令により神社仏閣に大きな影響があったことが分かり、今後も注意深く耳を傾けていきたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・とても良い講座でした。先生方の現場の声をもっとお聞きしたい。続編を企画して下さい。</li> <li>・自分自身のために得た知識を、地元老人会で広めていきます。既に「緊急医療情報連絡カード」は紹介しました。</li> <li>・時代に合わせた講座は勉強になりました。</li> <li>・生活にすぐ役立つ講座で大変有意義でした。</li> <li>・介護保険について、現在の制度は知っているのですが、これからの予測を聞きたかった。</li> <li>・「地域とのかかわり方」について具体的な話が聞きたかった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・温暖化の研究に南極観測が重要であることは判ったが、今後の予想の話も聞きたかった。</li> <li>・南極大陸と宇宙が共通している点が多くあることがわかった。</li> <li>・講師の方々の熱い情熱に感動した。厳しい環境の中で研究されたことが未来に活かされていくのだと実感した。</li> <li>・昭和基地創立から長き年月をかけ今や世界有数の科学基地になっていることに、調査に携わった方々に尊敬の念を抱きます。</li> <li>・南極大陸について、自分とは関係のない別世界と思っていたが、今回の受講を通じて身近に感じるようになった。</li> <li>・南極を愛してやまない先生方の熱心な講義に感動しました。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・講師の溢れるような知識に有意義な時間を過ごせた。</li> <li>・日本人の「知識」「技術力」にビックリです。</li> <li>・江戸時代に科学力が十分にあり、日本民族が非常に優秀で素晴らしいことが分かり、頼もしく思った。中高生にも聞かせたい。</li> <li>・江戸時代、災害にどのように対応されたのか知りたい。</li> <li>・将軍、大名の見識の高さに比べ現代の政治家の文化学問の理解の低さから今後の日本の科学が危ぶまれる。</li> <li>・鎖国によりガラパゴス化し、独自の発展を遂げたことが理解でき、面白い講座だった。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校の世界史の授業で感じなかった古代中国の状況をより詳細に感じることができた。</li> <li>・史実と演義の差異が部分的ではあるが理解出来た。史実に基づく内容を再度読み返すきっかけになった。</li> <li>・三国志の歴史の流れについて、改めて興味が深まった。</li> <li>・この講座を通じて、中国文明・文化の本を読みたいと思った。</li> <li>・講座準備、資料展示が素晴らしく感じた。会費徴収の価値はあると思う。</li> <li>・史実と作り話を分けて説明を頂いたので、三国志の流れについて改めて興味が深まった。</li> </ul>

## 【今後の課題】

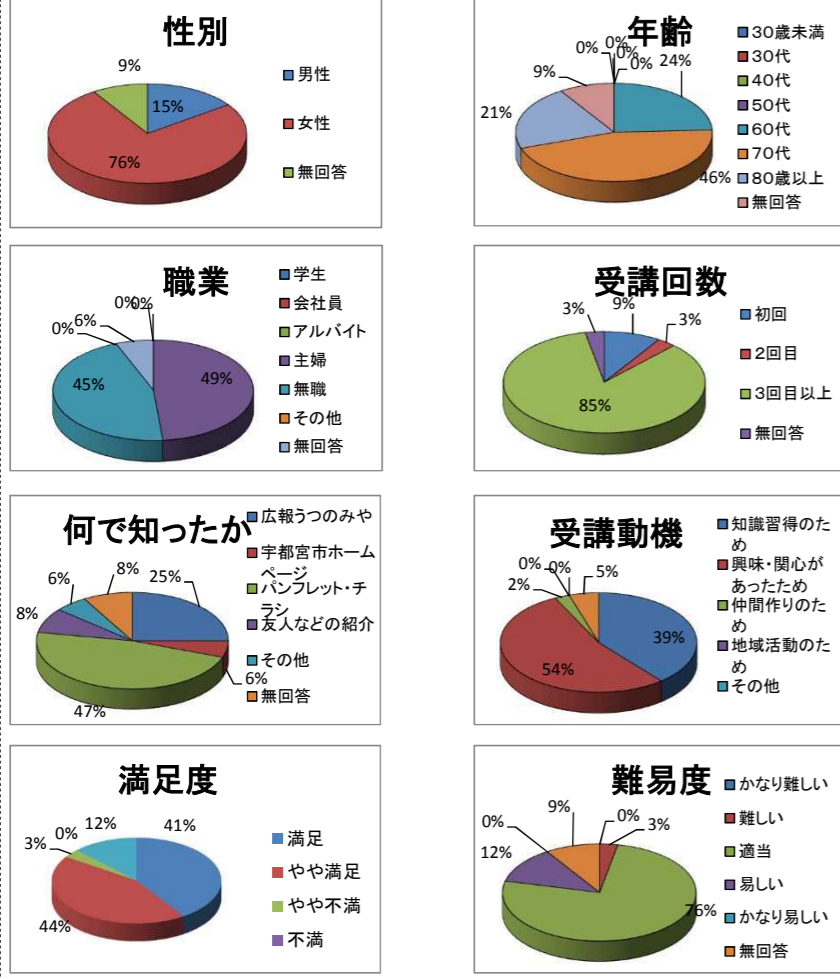
- ・新規受講者の取り込み  
「三国志」(土曜実施)で若者への受講拡大を試み、定員を超える申込はあったものの、新規受講者は4名(60才代)であった。市民大学の受講経験がない若い年代へも関心を引きつけることの出来る講座設定や広報などの手法を検討する必要がある。  
⇒SNSなど新たなツールによる周知、周知期間の拡大など
- ・幅広い学習内容での講座の実施  
II今を読み解く現代社会コースは、1講座のみの実施となった。市民の知的好奇心を満たすためには、現代的課題や旬の話題を取り入れた講座をより積極的に実施していく必要がある。  
⇒企画者(Vスタッフ)への周知啓発、企画選考における配慮など

令和元年度宇都宮市民大学前期専門講座 アンケート結果

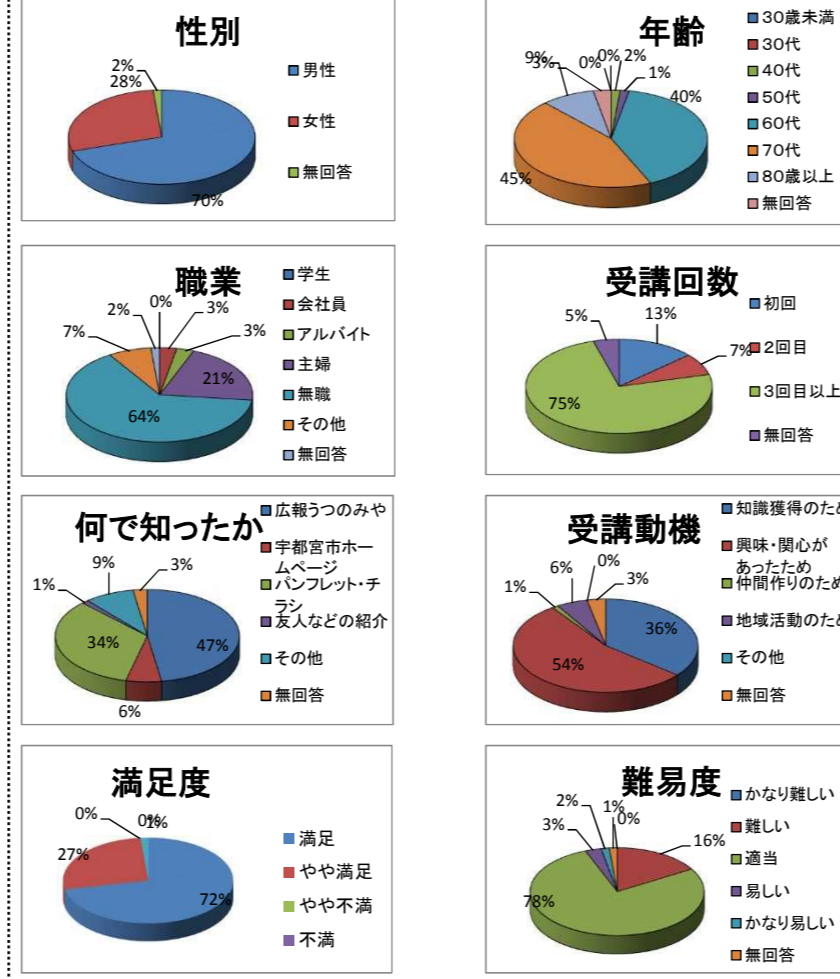
- 1 受講者数 336名
- 2 アンケート回答数 316名
- 3 アンケート回収率 94.0%



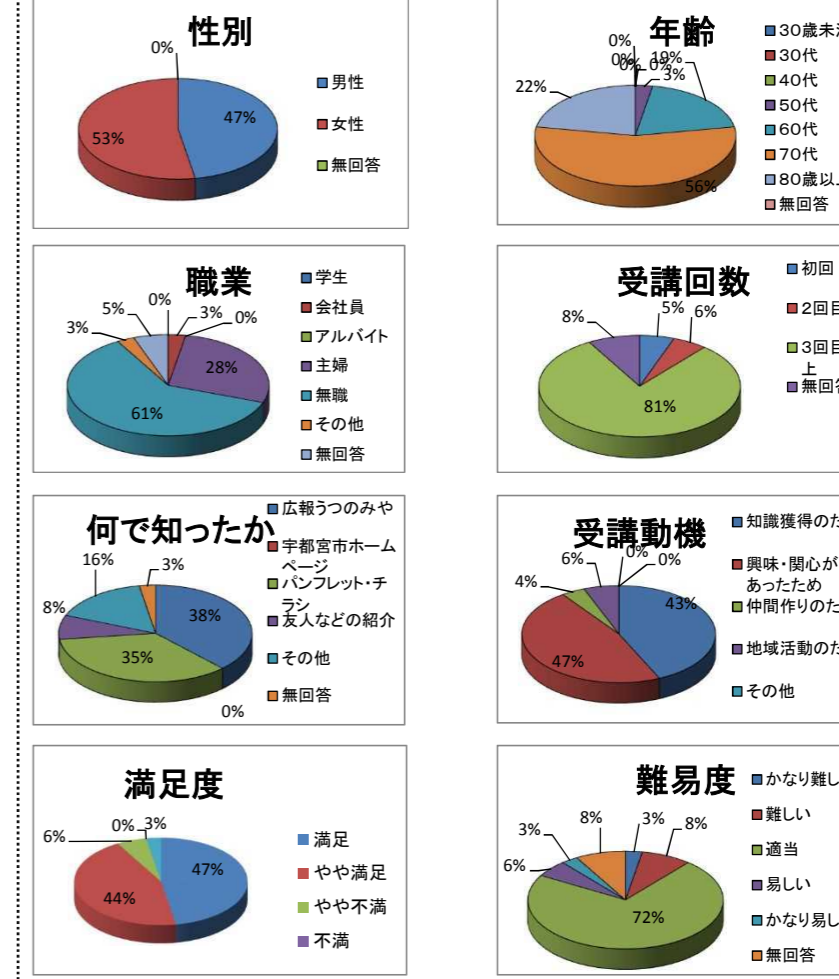
①近代を切り開いた栃木の女性たち



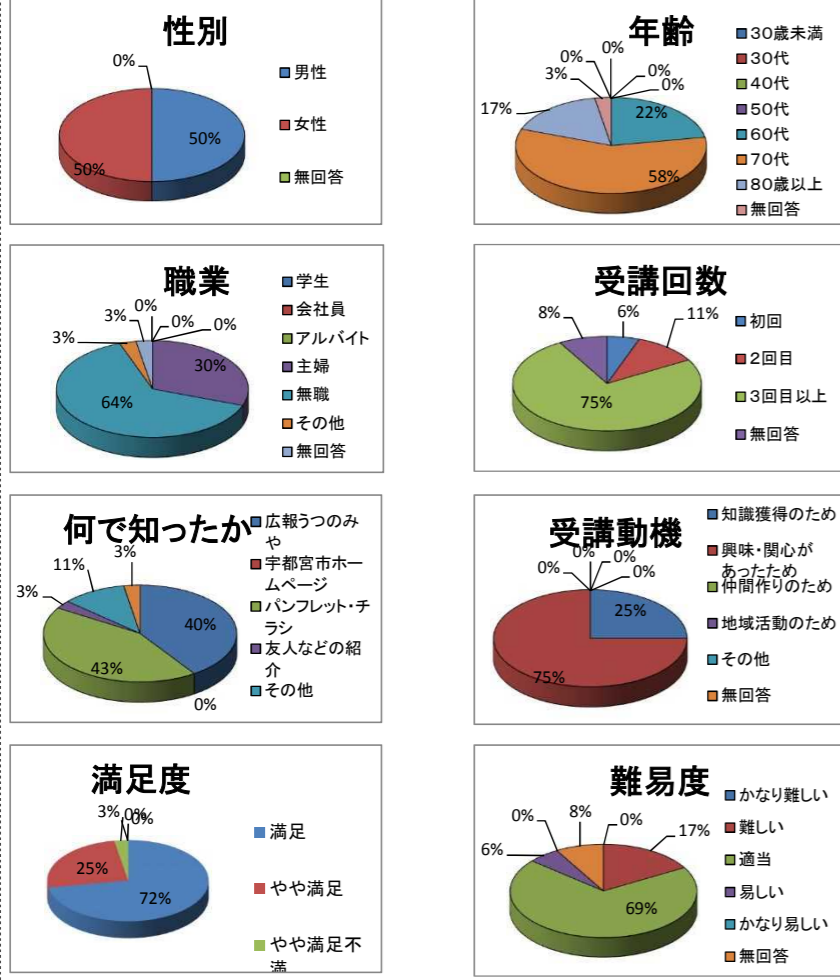
②宇都宮の明治維新



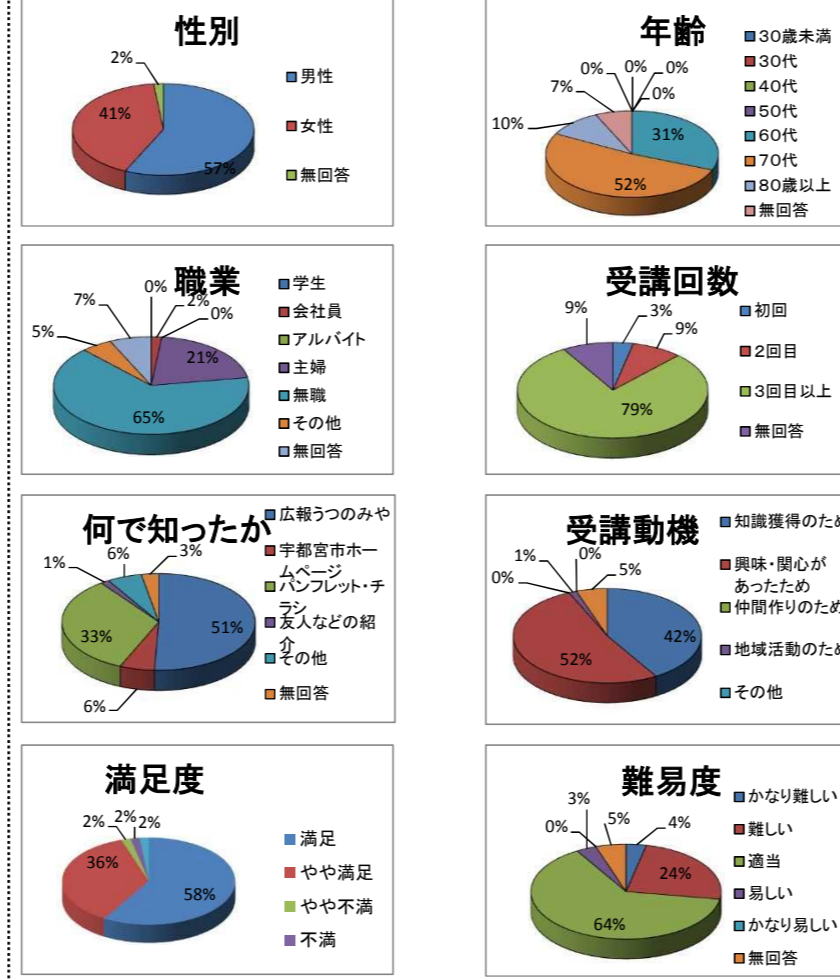
③人生100年時代、地域で暮らす豊かな生活のために



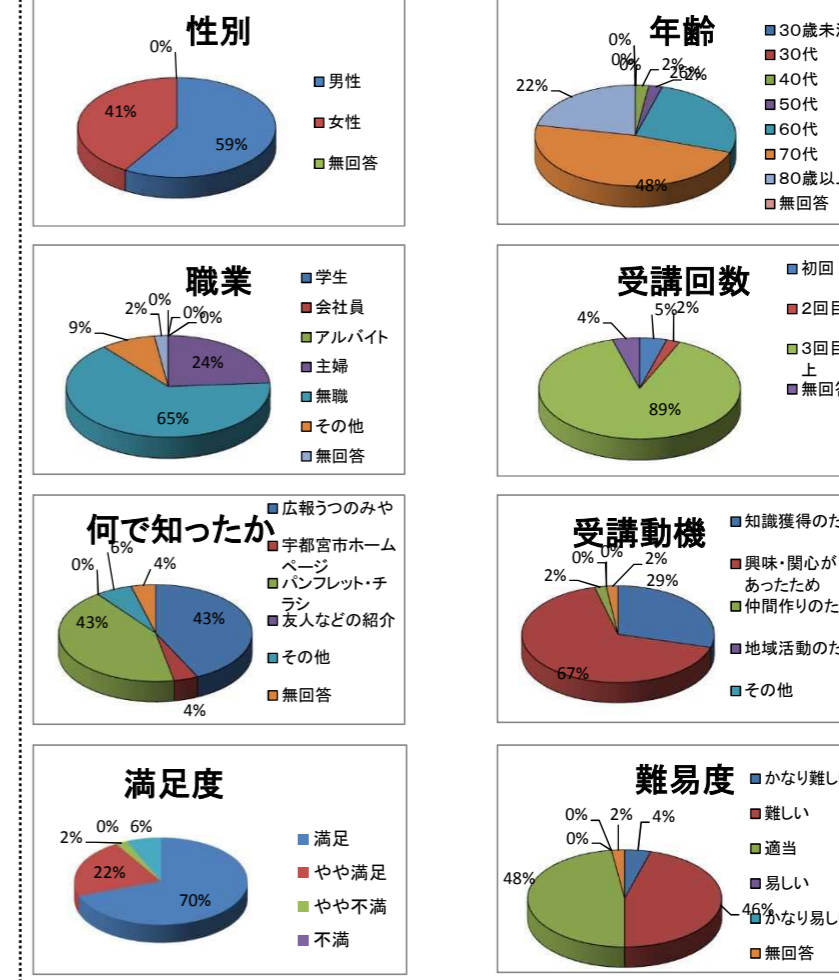
④南極大陸



⑤江戸の科学力！！



⑥三国志の世界





## 令和元年度宇都宮市民大学後期講座の実施について

## 1 合同開講式

専門講座受講者を対象に、合同開講式を開催する。

ア 日時 令和元年10月25日(金)午後2時～午後2時20分

イ 会場 宇都宮市立南図書館サザンクロスホール

## 2 公開講座

専門講座受講者及び一般市民を対象に、公開講座を開催する。

ア 日時 令和元年10月25日(金)午後2時30分～午後4時

イ 会場 宇都宮市立南図書館サザンクロスホール

ウ 内容 演題 あそびの天才 道具を使う天才 「烏」

～ くろの羽装<sup>うそう</sup>につつまれた能力 ～

講師 宇都宮大学 農学部 名誉教授 杉田昭栄 氏

## 3 専門講座

講座企画・運営ボランティアスタッフ企画講座を4講座(No.1, No.3, No.5, No.6),  
大学連携講座(宇都宮大学No.2, 【新規】栃木県立衛生福祉大学校No.4)を実施する。

ア 開催期間 令和元年10月～12月

イ 開催回数 6回～9回(公開講座1回を含む)

## 【後期専門講座内容】

No.	講座名	開催期間 (開催曜日・時間帯)
1	I 郷土を愛する地域・文化・歴史コース (全8回) 国際的文化人・円仁をはぐくんだ “しもつけ”の風土を考える	11月1日～12月20日 (金曜日 午前)
2	II 今を読み解く現代社会コース (全9回) カラスを知る～カラスの生理・生態と最新カラス研究の紹介～ 【宇都宮大学連携講座】	10月31日～12月19日 (木曜日 午前)
3	II 今を読み解く現代社会コース (全8回) 気象で読み解く日本の歴史 ～異常気象との攻防1400年～	11月2日～12月21日 (土曜日 午前)
4	II 今を読み解く現代社会コース (全6回) 人生100年時代を健康に生きよう! ～日々のケアで健康に、いざというときにも備えて～ 【新規】【栃木県立衛生福祉大学校連携講座】	11月5日～12月3日 (火曜日 午後)
5	III 暮らしを彩る教養コース (全7回) 歴史を美貌で振り回した女性たち! ～波乱万丈の生涯に学ぶ～	10月28日～12月9日 (月曜日 午前)
6	III 暮らしを彩る教養コース (全7回) 近世都市「江戸」の歴史 ～東京の礎となった江戸の歴史を知る～	11月12日～12月17日 (火曜日 午前)

※ 講座の実施会場は、人材かがやきセンター研修室(中央生涯学習センター5階)

※ 各専門講座の(開講数)は、「公開講座」を1回分として含む

※ 午前⇒10時から正午、午後⇒2時から4時

## 宇都宮市民大学合同開講式・公開講座のあり方見直しについて（案）

## ◎ 趣 旨

令和2年度以降の宇都宮市民大学合同開講式及び公開講座のあり方について協議するもの

## 1 合同開講式・公開講座の概要【宇都宮市民大学：平成5年開講】

【目 的】 平成23年度より，受講者の学習意欲の高揚と多くの市民の学びや交流の機会を創出し，受講者の学習意欲高揚を図るため，前期・後期ともに合同開講式及び公開講座（※）を実施

※各専門講座共通の1回目として開催し，専門講座受講者以外も受講可（有料）

【会 場】 連携先の大学の施設

【開催概要】 （合同開講式）連携先大学学長及び宇都宮市民大学学長（市長）の挨拶，受講者代表へ受講証の授与

（公開講座） 内容・講師等は連携先大学が企画した講義等

【そ の 他】 受講者全員から一律500円を徴収（専門講座受講者は受講料に上乗せ）

各専門講座修了に必要な出席数に公開講座も含めて換算 ⇒ 今年度から見直し

## 2 課 題

- ・ 専門講座受講者は全員公開講座の受講料を支払っているにもかかわらず，その約半数は公開講座に出席していない。（⇒ 参考1）
- ・ 公開講座受講料は，受講希望の有無を問わず専門講座受講料に上乗せし徴収されるため，専門講座受講者から不満が出ている。（⇒ 参考2）
- ・ 大学連携のため，公開講座のテーマ設定・内容に制限がある。
- ・ 大学施設の地理的条件により，受講者の駐車場確保や公共交通機関の利用が困難な場合がある。（⇒ 参考2）
- ・ 合同開講式は，学長（市長）と直接関わる場として期待されているが，公務都合により出席できない状況が続いている。

## （参考1）公開講座受講状況

年度	前期／後期	専門講座受講者数	専門講座受講者の出席人数	出席率
H29	前期	311人	157人	49%
	後期	305人	166人	54%
H30	前期	330人	158人	48%
	後期	340人	161人	46%

## （参考2）市民大学専門講座受講者や市民大学運営協議会委員からのご意見

- ・ 「専門講座の受講料に加え，希望していない公開講座の受講料まで負担することは不満だ。」（受講者アンケート）
- ・ 「公開講座会場が遠方につきバスでの移動が大変。」（受講者アンケート）
- ・ 受講者の声や出席率に鑑みると，公開講座への参加意欲のない方への対応や，手法の変更について検討する必要があるのではないか。（運営協議会）

⇒ 公開講座は受講を希望する人のみが受講（受講料負担）する開催方法への変更が必要

⇒ 受講者増に向けた公開講座の内容及び開催方法の検討，受講しやすい環境整備が必要

### 3 対応(案)

(1) 「合同開講式」は、廃止する。

- ⇒ 各専門講座の初回冒頭10分程度で開講式を行う。  
開講式の中で、市民大学学長(市長)メッセージ等を配布する。

(2) 「公開講座」は、開催方法等を見直し、より多くの市民に多彩な学びを提供する。

- ⇒ 専門講座共通の1回目とせず、独立した講座とする。  
⇒ 各分野の第一人者(著名人等)による講義等とする。  
・ 年1回(後期講座閉講後2月頃)の開催とする。  
・ 市文化会館など、駐車場や交通機関が確保でき、多くの受講者を収容できるホール等を会場とする。  
・ 受講料は引き続き500円とする。(公開講座受講者のみから徴収)  
⇒ 大学等と連携した専門講座は、引き続き実施する。

(3) 宇都宮市民大学公開講座実施要領を制定する。(別紙3参照)

### 4 期待される効果

(1) 開講式

- ・ 学長のメッセージが直接届くことにより、受講者の満足度の向上が見込める。

(2) 公開講座

- ・ 希望しない公開講座の受講料負担等に対する受講者の不満を解消できる。
- ・ 周知期間を十分に確保できることや、受講者が参加しやすい会場とすること等により、受講者増が見込める。
- ・ 第一人者(著名人等)を講師として招聘することで、より高度で専門的な内容となることに加え、専門講座受講者以外の受講者が増加し、市民大学の認知度向上や専門講座の受講促進を図ることができる。

### 5 スケジュール

令和元年	8月	第2回宇都宮市民大学運営協議会 ・「合同開講式及び公開講座のあり方」を決定 ・市民大学公開講座実施要領の決定 ・令和2年度宇都宮市民大学運営方針決定
令和2年	4月	第1回講座企画・運営ボランティアスタッフ(Vスタッフ)連絡会議 市民大学公開講座実施要領の施行 ・合同開講式廃止
令和3年	2月	第1回宇都宮市民大学運営協議会 ・公開講座企画の決定 令和2年度公開講座開催

宇都宮市民大学公開講座実施要領（案）

（趣旨）

第1条 この要領は、宇都宮市民大学学則第13条に基づき実施する公開講座について、必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第2条 多くの市民が一堂に会した学習や交流の機会を提供することにより、受講者の学習意欲の高揚を図るとともに、市民大学の周知、受講促進を図ることを目的とする。

（実施回数）

第3条 年1回実施する。

（実施場所）

第4条 宇都宮市内の公共施設等で実施する。

（受講料）

第5条 受講料は500円とする。

（公開講座の内容及び講師）

第6条 生涯学習に対する社会の要請や、市が推進する地域教育の理念を踏まえ、社会的関心や今日的課題に対応した講座内容及び講師を選定する。

（交流の場の創出）

第7条 受講者及び関係団体等が相互に交流し、更なる学習や活動の機会へとつながる場の創出に努めるものとする。

（補則）

第8条 この要領に定めるもののほか必要な事項は、別に定める。

附 則

この要領は、令和2年4月1日から施行する。

## ◇平成30年度 宇都宮市文化会館小ホール 集客実績(抜粋)

開催日	事業名	内容	料金(円)	入場者数(人)
H31.1.27(土)	新春市民寄席	落語(真打3名) 三味線漫談	2,500	377
H30.9.8(土)	THE NEWSPAPER公演	コント	4,000	453
H30.7.14(土)	稲川淳二怪談ナイト	トークライブ	5,500	452
H30.5.27(日)	プロムナードコンサート2018 館野泉&草笛光子 音楽と物語の世界	ピアノ演奏と朗読	2,500	482

## 令和 2 年度宇都宮市民大学の実施について（案）

### ◎ 趣 旨

令和 2 年度宇都宮市民大学の実施について協議するもの

#### 1 令和 2 年度市民大学の実施について

##### (1)開催方針

市民大学事業については、「生涯学習センター主催講座」や「人材かがやきセンター主催講座」との差別化を図り、本市の生涯学習事業の中で唯一の有料講座として、心豊かに市民生活を送るための教養講座や、郷土愛を育む地域の文化・歴史講座など、市民の知的好奇心を満たし、生きがいや精神的な豊かさなど市民生活に潤いを与える学習機会の提供に重点的に取り組む。

令和 2 年度事業については、市民大学の役割である高等教育機関との連携による高度で専門的な内容の講座を実施する。また、本市の社会教育分野における基本計画である「第 3 次宇都宮市地域教育推進計画」に基づき、幅広い学習内容で展開することで、受講者満足度の向上を図るとともに、積極的に土・日や夜間の時間帯に専門講座を実施することや、新たな手法による公開講座を実施することにより、市民大学の認知を拡大し、新規受講者の獲得を図る。

##### (2)公開講座

公開講座は、多くの市民が一堂に会した学習を提供し、受講者の学習意欲の高揚や市民大学の周知を図ることを目的に実施する。

- ① 実施時期 令和 3 年 2 月頃（後期講座閉講後）
- ② 会 場 宇都宮市文化会館小ホール等（収容人数 5 0 0 人程度）
- ③ 講 師 著名人等
- ④ 受 講 料 5 0 0 円（公開講座受講者のみから徴収）

公開講座実施の詳細については、令和 2 年 4 月に開催予定の運営協議会において決定する。

##### (3)専門講座の実施方法等

専門講座のコース設定及び講座実施数については、令和元年度同様の 3 コース 1 2 講座とする。

また、各専門講座毎に開講式を実施する。

###### ① コース設定（3 コース）

###### ア 郷土を愛する地域・文化・歴史コース

地域の歴史や文化、産業、自然、民俗など地域の特質を学び、郷土に誇りや愛着をもつための講座

#### イ 今を読み解く現代社会コース

個人や社会を取り巻く環境がめまぐるしく変化する現代社会において、より賢く快適に暮らしていくため、社会の流れを読み解き、暮らしや地域コミュニティに活かしていく知恵を学ぶ講座

#### ウ 暮らしを彩る教養コース

芸術・文学・科学のほか、先進技術など広範で学術的なテーマから深い教養を身に付け、潤いのある生活を送るための講座

### ② 講座実施数（12講座予定）

ア 前期（5月下旬～7月） 6講座

・内訳 Vスタッフ企画 - 5講座，大学連携 - 1講座

イ 後期（10月下旬～12月） 6講座

・内訳 Vスタッフ企画 - 4講座，大学連携 - 1講座，事務局枠 - 1講座

### ③ Vスタッフ企画講座の選考方法

ア 募集要項

⇒ 別紙4参照

イ 選考会の実施

選考の透明性を確保し客観的な視点から講座を選考するため、専門的な知識を有する委員による講座企画運営選考委員会を実施する。

なお、Vスタッフのスキルアップと、講座企画選考委員会の実施状況の周知・理解を目的として、Vスタッフの希望者に対して、選考委員会の傍聴及び模擬審査への参加を認める。

ウ 企画講座の決定

講座企画運営選考委員会の選考結果を踏まえ、運営協議会において決定する。

### ④ 受講者の決定方法

ア 申込者が募集定員以内の場合

・申込者全員を受講者として決定する。

イ 申込者が募集定員を超えた場合

- ・講師等との調整により、定員の増員について検討を行う。
- ・次の人を優先的に受講決定後、抽選を行う。

① 今回初めて市民大学に申込をした人

② 前回申込をしたが抽選の結果落選となり、講座をひとつも受講できなかった人

③ 今回複数の講座に申込をしており、その講座すべてが抽選となる人

#### (4) 大学連携

専門講座における市内6大学との連携講座を、引き続き実施する。

令和2年度 前期 文星芸術大学（予定）

後期 作新学院大学（予定）

#### 【参考】

	前 期	後 期
平成 29 年度	文星芸術大学	作新学院大学
平成 30 年度	宇都宮共和大学	帝京大学
令和元年度	宇都宮短期大学	宇都宮大学

## 2 今後のスケジュール（予定）

8月下旬 第1回講座企画・運営ボランティアスタッフ連絡会議の開催

・令和2年度宇都宮市民大学専門講座企画募集要項等の説明

10月中旬 宇都宮市民大学専門講座企画募集の締め切り

・書類審査

11月上旬 宇都宮市民大学講座企画運営選考委員会の開催

・プレゼンテーション審査及び企画選考

11月下旬 第3回宇都宮市民大学運営協議会の開催

・実施企画の決定

令和2年

4月1日 市民大学公開講座実施要領の施行

・合同開講式廃止

4月中旬 第1回宇都宮市民大学運営協議会

・公開講座企画の決定

令和3年2月 令和2年度公開講座開催



## 令和 2 年度宇都宮市民大学専門講座企画募集要項（案）

### I 令和 2 年度宇都宮市民大学の実施について

#### (1) 開催方針

市民大学事業については、「生涯学習センター主催講座」や「人材かがやきセンター主催講座」との差別化を図り、本市の生涯学習事業の中で唯一の有料講座として、心豊かに市民生活を送るための教養講座や、郷土愛を育む地域の文化・歴史講座など、市民の知的好奇心を満たし、生きがいや精神的な豊かさなど市民生活に潤いを与える学習機会の提供に重点的に取り組む。

令和 2 年度事業については、市民大学の役割である高等教育機関との連携による高度で専門的な内容の講座を実施する。また、本市の社会教育分野における基本計画である「第 3 次宇都宮市地域教育推進計画」に基づき、幅広い学習内容で展開することで、受講者満足度の向上を図ることに加え、積極的に土・日や夜間の時間帯に専門講座を実施することや、新たな手法による公開講座を実施することにより、市民大学の認知を拡大し、新規受講者の獲得を図る。

#### (2) 公開講座

公開講座は、多くの市民が一堂に会した学習を提供し、受講者の学習意欲の高揚や市民大学の周知を図ることを目的に実施する。

- ① 実施時期 令和 3 年 2 月頃（後期講座閉講後）
- ② 会 場 宇都宮市文化会館小ホール等（収容人数 5 0 0 人程度）
- ③ 講 師 著名人等
- ④ 受 講 料 5 0 0 円（公開講座受講者のみから徴収）

公開講座実施の詳細については、令和 2 年 4 月に開催予定の運営協議会において決定する。

#### (3) 専門講座の実施方法等

専門講座のコース設定及び講座実施数については、令和元年度同様の 3 コース 1 2 講座とし、開講式は各専門講座の初回冒頭で行う。

##### ① コース設定（3 コース）

###### ア 郷土を愛する地域・文化・歴史コース

地域の歴史や文化、産業、自然、民俗など地域の特質を学び、郷土に誇りや愛着をもつための講座

## イ 今を読み解く現代社会コース

個人や社会を取り巻く環境がめまぐるしく変化する現代社会において、より賢く快適に暮らしていくため、社会の流れを読み解き暮らしや地域コミュニティに活かしていく知恵を学ぶ講座

## ウ 暮らしを彩る教養コース

芸術・文学・科学のほか、先進技術など広範で学術的なテーマから深い教養を身に付け、潤いのある生活を送るための講座

### ②講座実施数 12講座

ア 前期（5月下旬～7月） 6講座

・内訳 Vスタッフ企画 - 5講座，大学連携 - 1講座

イ 後期（10～月下旬12月） 6講座

・内訳 Vスタッフ企画 - 4講座，大学連携 - 1講座，事務局枠 - 1講座

### ③館外学習の実施について

ア 館外学習における事前調査行程表は、企画者が作成する。

イ 選考委員会において上位の成績を納めた企画に館外学習が予定されている場合は、講座を実施する上で現地学習が必要かを、企画者が作成した事前調査行程表を基に事務局が判断し、内容に応じて現地学習から座学へ変更することもある。

ウ 館外学習実施が確定した企画において、企画者が作成した事前調査行程表の内容が適切か、また安全上問題はないかを事務局が現地に赴き確認する。

エ 受講者の館外学習における費用は、実費負担とする。

オ 館外学習における講師、企画者及び事務局同行者の費用は、事務局が負担する。  
(企画者がグループの場合は上限3名分とする)

### ④Vスタッフ企画講座の選考方法

ア 選考会の実施

選考の透明性を確保し客観的な視点から講座を選考するため、専門的な知識を有する委員による講座企画運営選考委員会を実施する。

なお、Vスタッフのスキルアップと、講座企画選考委員会の実施状況の周知・理解を目的として、Vスタッフの希望者に対して、選考委員会の傍聴及び模擬審査への参加を認める。

イ 企画講座の決定

講座企画運営選考委員会の選考結果を踏まえ、運営協議会において決定する。

## II 市民大学専門講座の募集概要

次のとおり、専門講座の企画を募集する。

### 1 募集分野（コース）

- (1) 郷土を愛する地域・文化・歴史コース
- (2) 今を読み解く現代社会コース
- (3) 暮らしを彩る教養コース

※ 1 ページ I (2) ①コース設定参照

### 2 募集講座数

各コース合わせて9講座

### 3 応募資格

Vスタッフの個人またはグループを対象とする。

- ・平成13年度～17年度 宇都宮市生涯学習ボランティア養成講座修了生
- ・平成18年度～25年度 宇都宮市生涯学習コーディネーター養成講座修了生
- ・平成27年度～30年度 宇都宮市講座企画・運営ボランティアスタッフ養成講座修了生

### 4 応募方法

別紙の企画書（様式1）及び企画書学習プログラム（様式2）を作成し、応募申込書を添えて令和元年9月20日（金）から10月4日（金）までに宇都宮市民大学事務局（人材かがやきセンター内）に直接またはメール、郵送（必着）で提出すること。

※ 応募書類の返却は不可

※ データが必要な方は、[college@city.utsunomiya.tochigi.jp](mailto:college@city.utsunomiya.tochigi.jp) までご連絡ください。

### 5 講座決定までの流れ

#### (1) 予備審査の実施

応募された企画を対象に、事務局による応募書類の確認を行う。

#### (2) 宇都宮市民大学講座企画運営選考委員会の実施

書類審査を通過した企画は、令和元年11月上旬に、選考委員会によるプレゼンテーション審査を実施する。講座企画運営選考委員会の日程については、応募書類提出後に改めて通知する。

#### (3) 宇都宮市民大学運営協議会における審議

上記選考委員会の審査結果を運営協議会に報告し、審議の上、採用する企画を決定する。選考結果については、応募者全員に通知する。

## 6 講座企画者の役割

採用された講座の企画者は、講座企画運営選考委員会の意見を取り入れるとともに、事務局担当者と協力して、講座内容のより一層の充実を図っていく。

また、講師との調整、広報紙等の校正協力、館外学習がある講座は事前調査を行うほか、講座当日の会場設営・進行・後片付けなど講座開催に関する業務を、別途募集する運営スタッフと協力して主体的に担う。

## 7 講座企画上の留意点

- (1) 講座回数は6～7回を標準として、8回を限度とする。
- (2) 1回の講座時間は2時間。
- (3) 館外学習は1講座につき1回限りとする。(館外学習は2時間の枠にこだわらず、1日の範囲内で時間設定ができることから、企画書には概ねの時間及び場所を明記すること)
- (4) 開催時期については、前期講座は5月下旬～7月、後期講座は10月下旬～12月とし、同じ曜日、同じ時間帯を原則とする。
- (5) 講座開催会場は、人材かがやきセンター研修室(中央生涯学習センター5階)を使用すること。それ以外の会場を使用する場合は、企画書に必要性を併せて明記すること。
- (6) 受講料は、開講時に事務局が徴収する。(1回500円×講座回数分)
- (7) 受講料のほかに材料費やテキスト代、館外学習における見学料等の実費が想定される場合は明記すること。
- (8) 全ての講座において、託児サービスを設ける。(館外学習時を除く)
- (9) また、営利目的や特定の政党・候補者の利害に関すること、特定の宗教・教派・宗教・教団を支援する内容は認められない。
- (10) 講座の講師予定者と事前に連絡や相談などを行う場合には、講座は企画の段階であり、講座開催が確定していない旨を説明し、講師に誤解を与えることのないよう留意すること。
- (11) 講師依頼の際の謝金については、市民大学では別添資料「市民大学における講師謝金」に基づき支出している旨を説明する。該当区分を判断できない場合は、事務局に相談すること。(交通費については、県内通勤の講師を除き、県外からの講師にのみ支給する。ただし、車両での来場は支給の対象外とする。)
- (12) 講座決定後、館外学習を実施する場合は、予定している行程表を作成すること。

## 8 その他

- (1) 募集期間中における応募状況や他の企画内容についての問い合わせは不可とする。
- (2) グループ企画については、通知等をグループ代表者に一括して送付する。
- (3) 令和2年度の講座数は、Vスタッフ企画9講座、大学連携講座2講座、事務局枠1講座とする。

### 【大学連携】

令和元年度 宇都宮短期大学，宇都宮大学

令和2年度（予定） 文星芸術大学，作新学院大学

- (4) 採用された企画には、企画運営に必要な費用を講座企画運営費として実費を交付する。（予定）（令和元年度実績：1講座3万円を上限）
- (5) 募集要項に記載のない事項については、事務局に確認すること。
- (6) 企画書（様式1）及び企画書学習プログラム（様式2）について、データ提供を希望する場合は、事務局に申し出ること。

## 令和2年度宇都宮市民大学専門講座応募申込書

令和元年 月 日

別紙の企画書（様式1）及び企画書学習プログラム（様式2）のとおり、  
令和2年度宇都宮市民大学専門講座企画募集に応募いたします。

代表者 氏名	
住所	〒 宇都宮市
連絡先等	(自宅) 028 ( ) (FAX) 028 ( ) (携帯) — — (Email)
備考	

※ 個人情報については、宇都宮市民大学事業に使用させていただきます。  
目的以外には使用いたしません。

※ 御不明な点は、生涯学習課（632-6332）担当：高田まで  
お問い合わせください。

## 令和2年度宇都宮市民大学専門講座企画書

様式 1

企 画 者	(グループ名がある場合は名称)			
	企画者氏名 (養成講座修了年度) ※グループ代表者に◎印, 企画代表者に○を付ける			
	1	(平成 年度)	5	(平成 年度)
	2	(平成 年度)	6	(平成 年度)
	3	(平成 年度)	7	(平成 年度)
4	(平成 年度)	8	(平成 年度)	

1	コ ー ス 分 類	<input type="checkbox"/> 郷土を愛する地域・文化・歴史コース	<input type="checkbox"/> 今を読み解く現代社会コース
		<input type="checkbox"/> 暮らしを彩る教養コース	
2	講 座 名 サ ブ タ イ ト ル	「 _____ 」 ～ _____ ～	
3	希 望 期 間	○第1希望 ( )	期 間 ① 前期 (5月下旬～7月) ② 後期 (10月下旬～12月)
		○第2希望 ( )	
4	希 望 曜 日 時 間 帯	○第1希望 曜日 時間帯 ( )	時 間 帯 ①午前 (午前10時～正午) ②午後 (午後2時～4時) ③夜間 (午後6時30分 ～8時30分)
		○第2希望 曜日 時間帯 ( )	
		○第3希望 曜日 時間帯 ( ) ※水曜日の午前, 午後は一般研修等により 研修室は使用できません。	
5	定 員 (理由)	<input type="checkbox"/> 50名 <input type="checkbox"/> 70名 <input type="checkbox"/> その他 ( 名 ) (理由)	
6	内 容	全 回 詳細は別紙様式2 学習プログラムのとおり (公開講座を除く)	
7	会 場	・人材かがやきセンター研修室	

8	受講料	<p style="text-align: center;">円 ( 回×500円)</p> <p>実費徴収 <input type="checkbox"/> 有 (目的: 金額: 円)</p> <p style="padding-left: 150px;"><input type="checkbox"/> 無 ※バス代を除く見学科等</p>
9	収支 (見込み)	<p>○ 受講料収入: 円</p> <p style="padding-left: 100px;">( 名× 円)</p> <p>○ 講師謝金: 円</p> <p style="padding-left: 40px;">※講師謝金一覧に基づく, 概ねの謝金額 (交通費も含む)</p> <p><b>【算出根拠】</b></p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>○ 差し引き: 円</p>
10	スタッフ	<p style="text-align: center;">人程度 (企画者 人, 運営ボランティア 人)</p>
11	その他 特記事項	



令和2年度宇都宮市民大学専門講座企画書

様式 1

企 画 者	(グループ名がある場合は名称) あさひ <b>企画代表者に○を付ける</b>			
	企画者氏名(養成講座修了年度) ※グループ代表者に◎印, 企画代表者に○を付ける			
	①	栃木 太郎 (平成13年度)	5	横川 明子 (平成19年度)
	2	宇都宮 花子 (平成13年度)	6	国本 美子 (平成22年度)
	◎③	平石 次郎 (平成14年度)	7	中央 四郎 (平成24年度)
4	清原 三郎 (平成17年度)		養成講座修了年度を記入 (平成 年度)	

1	コース 分類	<input type="checkbox"/> 郷土を愛する地域・文化・歴史コース <input type="checkbox"/> 暮らしを彩る教養コース <input checked="" type="checkbox"/> 今を読み解く現代社会コース
2	講座名 サブタイトル	「今こそ陶芸から学ぶ」 ～世界, 地域, 教育の視点から陶芸について考える～ <b>当てはまるコースの口を塗りつぶす</b>
3	希望期間	<input type="radio"/> 第1希望 ( ① ) <input type="radio"/> 第2希望 ( × ) 期 間 <input checked="" type="radio"/> 前期 (5月下旬～7月) <input type="radio"/> 後期 (10月下旬～12月)
4	希望曜日 時間帯	<input type="radio"/> 第1希望 火 曜日 時間帯 ( ① ) <input type="radio"/> 第2希望 月 曜日 時間帯 ( ② ) <input type="radio"/> 第3希望 木 曜日 時間帯 ( ① ) ※水曜日の午前, 午後は一般研修室で実施し、 研修室は使用できません。 右欄の時間帯の番号を記入 ①午前 (午前9時～正午) ②午後 (午後2時～4時) ③夜間 (午後6時30分～8時30分) <b>講座の開催曜日を第3希望まで記入</b>
5	定員 (理由)	<input type="checkbox"/> 50名 <input type="checkbox"/> 70名 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 30名 ) (理由) 実技を行うのに, 適切な人数であるから。
6	内 容	全 7 回    詳細は別紙様式2学習プログラムのとおり (公開講座を除く)
7	会 場	・人材かがやきセンター研修室

8	受講料	3,500円(7回×500円) 実費徴収 <input checked="" type="checkbox"/> 有(目的:陶芸実習材料費 金額:1,000円) <input type="checkbox"/> 無
9	収支 (見込み)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">           ○ 受講料収入: 175,000円                              (50名×3,500円)         </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">           ○ 講師謝金: 210,000円            ※講師謝金一覧に基づく、概ねの謝金額(交通費も含む)  <b>【算出根拠】</b>  <u>全回・大学教授クラス 30,000円×7回</u> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">           ○ 差し引き: ▲35,000円         </div>
10	スタッフ	7人程度(企画者5人,運営ボランティア2人)
11	その他 特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陶芸実習を1回(1日)予定</li> <li>・期間については,予定している講師の都合により「前期」にしか設定できません</li> </ul>

講座に係る収支を記載

講座の回数を記入

No. \_\_\_\_\_

様式 2

令和2年度宇都宮市民大学専門講座企画書（学習プログラム）

講座名 サブタイトル	
企画の目的 必要性・効果	
講座概要	
実施に伴う 課題・対応	
アピール ポイント	

回	期日	テーマ	ねらい	
1	月 日 ( )			
		内 容	学習方法	講 師
			<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技等 <input type="checkbox"/> ワークショップ <input type="checkbox"/> 館外学習 <input type="checkbox"/> 他 ( )	
2	月 日 ( )	テーマ	ねらい	
		内 容	学習方法	講 師
			<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技等 <input type="checkbox"/> ワークショップ <input type="checkbox"/> 館外学習 <input type="checkbox"/> 他 ( )	
3	月 日 ( )	テーマ	ねらい	
		内 容	学習方法	講 師
			<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技等 <input type="checkbox"/> ワークショップ <input type="checkbox"/> 館外学習 <input type="checkbox"/> 他 ( )	
4	月 日 ( )	テーマ	ねらい	
		内 容	学習方法	講 師
			<input type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技等 <input type="checkbox"/> ワークショップ <input type="checkbox"/> 館外学習 <input type="checkbox"/> 他 ( )	

令和2年度宇都宮市民大学専門講座企画書（学習プログラム）

<p>講座名 サブタイトル</p>	<p>今こそ陶芸から学ぶ ～世界、地域、教育の視点から陶芸について考える</p>
<p>企画の目的 必要性・効果</p>	<p>この講座は、実は「社会貢献活動」へのきっかけ作りを目的とする。東日本大震災以降、強く必要とされている、「人と人の絆」。現在も、被災地に対するボランティア活動などの取組みが多く行われている状況であり、「絆」の再構築を契機として、社会教育のあり方を見直す契機であるとも言われている。</p> <p>この企画では、「陶芸」という文化的・趣味的な講座を前面に出しながらも、各講義の中で、陶芸を例示とした社会貢献活動に対する学びや、「ざぶん展」に参画することで、『「地域貢献活動」の経験』と『「絆」の構築』に自然と関わっていくこととなり、また、受講された方々の経験の伝承などをおして、その家族や友人を含め「地域活動」への参加や「社会貢献活動」への参加にも繋がるものと考えている。</p>
<p>講座概要</p>	<p>陶芸の歴史は人の営みと共に古く、作陶技術は、時代を経て変遷し、生活に身近な器から心を豊かにしてくれる芸術作品までと、私たちとのかわり方も幅広いものとなり、地域の観光振興や文化交流などに貢献する重要な地域資産ともなっている。</p> <p>本講座では、国際的な視点から陶芸の歴史や文化を学んでいく。多くの被災を受けながらも、今に受け継がれ進化を続ける、陶芸文化の力強さとその魅力に、グローバルな視点で注目していく。</p> <p>また、文星芸術大学が取り組んでいる、陶芸を通じた特別支援教育現場との交流・地域活動等から、「陶芸の力が育む『人づくり』」や「陶芸の力が生み出した『ユニバーサルデザイン』」など、陶芸がもたらす様々な効果・効力を事例から学び、「陶芸」の今後の更なる可能性について学んでいく。</p>
<p>実施に伴う 課題・対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ざぶん展」のバックヤード見学などがあることから、安全確保に十分に努める必要がある。実施に際しては、十分な事前の連絡調整、会場の下見などを事務局とともに実施することにより対応する。また、運営ボランティアの人数確保にも努める必要がある。</li> <li>・陶芸の実習を伴うことから、実習費が高額にならないよう、効果的・効率的な実施内容について、講師と調整・検討していく。</li> </ul>
<p>アピール ポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの方に人気がある講師から学べることから、定員を超える申込が期待できる。</li> <li>・「陶芸」に興味をもって参加した方に対し、講義や作陶による充足・満足感などの、いわゆる「個人の要望」に応えることはもとより、陶芸を通じた「人との絆づくり」や「社会貢献活動への直接参加」により、地域活動を積極的に盛り上げる人材の育成も行うことから「社会の要請」にも寄与する、大変有意義な講座であると考えている。</li> </ul>

企画した講座の趣旨（ねらい）や全コマ受講した後の効果を記入。また、特にターゲットとする受講者等がある場合には、その旨も記入。

講座の概要を明記してください（パンフレット参照）

コマごとの学習の「ねらい」について簡潔に記入

回	期日	テーマ	ねらい	
1	11月1日 (火)	戦乱と陶の歴史 (西洋と東洋の境界線～トルコの風～)	トルコの陶芸文化の力強さとその魅力について学ぶ。	
		内容	学習方法	講師
		日本と同様に地震の多いトルコでは、陶器も多くの被災を受けている。しかし、長い年月をかけて伝統を受け継ぎ、進化を続けている様子を講師の撮影した映像を交えながら学ぶ。	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 実技等 <input type="checkbox"/> ワークショップ <input type="checkbox"/> 館外学習 <input type="checkbox"/> 他 ( )	○○大学 教授 ○○○○ 氏
		テーマ	ねらい	
		内容	具体的に肩書きがわかるよう記入 【例】 ・○○○審議委員会委員 ・△△病院 理学療法士 ※未定の場合は、○○専門家、大学教授クラス等と記入	
			<input type="checkbox"/> ワークショップ <input type="checkbox"/> 館外学習 <input type="checkbox"/> 他 ( )	

コマごとの講義内容について、簡略に記入

具体的に肩書きがわかるよう記入  
【例】  
・○○○審議委員会委員  
・△△病院 理学療法士  
※未定の場合は、○○専門家、大学教授クラス等と記入

# 専門講座応募企画の審査について

## 1 審査方法

### (1) 予備審査

プレゼンテーション審査に先立ち、応募された企画を対象に、事務局による応募書類の確認を行う。(内容等確認のため、連絡する場合あり)

### (2) プレゼンテーション審査

- ① プレゼンテーション審査はコース別（郷土を愛する地域・文化・歴史コース，今を読み解く現代社会コース，暮らしを彩る教養コース）に行うこととする。企画運営者は、提出した企画書等に基づき、選考委員に対してプレゼンテーションを行い、質疑に答える。
- ② 選考委員は、審査項目の（1）から（5）について5段階評価で審査する。
- ③ 選考委員会は、審査結果をもとにコース別に順位を決定し、運営協議会に報告する。
- ④ プレゼンテーション審査は日時を設け、企画運営者からの説明 8 分，選考委員からの質問 5 分の計 13 分を目安とする。なお、企画応募数の状況により，説明時間等が変動する場合がある。

## 2 審査項目

(1)	社会ニーズ	社会の変化や要請，地域の特性や文化など，本市のまちづくりやコミュニティの発展，あるいは市民の郷土理解に資する社会的な視点やねらいが盛り込まれているか。
(2)	市民ニーズ	市民が求める高度で専門的な学習ニーズをとらえているか。
(3)	構成力	設定された講座のねらいに沿った各回の展開や組み立てがされているか，また実習やワークショップなど，学習効果を高めるための工夫がされているか。
(4)	運営力	適切な講師の想定，事前準備や講座運営に対する考え方など，確実に講座を運営していくための体制が整っているか。 <u>ただし，企画応募条件において，講師の確保までは求めないこととしているため，想定講師の受諾については審査に加味しない。</u>
(5)	発展性	講座を契機とするネットワークの形成，学んだことを実践し，生かせる仕組みづくりや導入，リーダー養成に資するスキルの習得など，受講者の行動や考え方の変化を促す効果があるか。

### 3 審査基準

各項目の審査基準は、下記の表のとおりとする。

選考委員1名につき25点満点とし、出席委員の合計点で評価する。ただし、分野別の講座数等も踏まえ、総合的に判断し選考することとする。

点数	審査基準
5	とても優れている
4	優れている
3	やや優れている
2	やや劣っている
1	劣っている

### 4 選考方法

宇都宮市民大学講座企画運営選考委員会は、審査結果を宇都宮市民大学運営協議会に報告し、運営協議会は全体を調整・審議のうえで開催する講座を決定する。